

令和5年度 府中市立日新小学校 授業改善推進プラン（各学年の取組）

第1学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 平仮名の読み書きや音読ができるようになってきているが、個人差が大きい。 すすんで発言する児童と考えをもっていないも発言ができない児童の個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 一斉読みや追い読みなど、さまざまな読み方で音読練習をしながら、語のまとまりで読めるように指導していく。 身近な話題について話す活動を取り入れながら、自分の考えを伝えるように支援する。 	B	B
算数	<ul style="list-style-type: none"> 文章問題を読み、立式することがまだ難しい児童がいる。 正しい式や答えを求めることはできるが、理由を説明することが全体的にまだ難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章題を読んで、大切な言葉や数字に線を引く等、文章題を解く練習をしていく。 自分で考える時間を十分に確保し、文章や図で書いたり、友達に説明したりする活動場面を増やしていく。 	C	B
生活	<ul style="list-style-type: none"> 知識や経験について、個人差が大きい。 学習中、ねらいから外れて、他のことに興味に移ることがある。 絵や言葉、文章で表現したりすることについては、個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> できる限り実物に触れたり接したりさせる。状況的に無理ならばそれを補う資料を用意する。 学習のねらいを明確にもたせるとともに、振り返りを行わせる。 個に応じて、ワークシートの量を減らしたりまとめ方のパターンを提示したりする等の手立てをとる。 	B	B
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に授業に参加して、歌や楽器に意欲的に取り組む児童が多い。 音楽の知識や技能で、経験や発達段階による差が見られる。 音楽の授業で自分のやりたいことを抑えられず、学習の迷惑になる音を出してしまう児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 演奏する楽しさや達成感を味わえるように、旋律を階名で暗唱する等して、楽器の演奏の仕方を身に付けられるようにする。 何度も繰り返し確認をしていくことで、音楽経験による差が埋まるように指導を進める。 	B	B
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな表し方を考えることに課題がある児童がいる。 制作を短時間で終わらせてしまい、より工夫して取り組むことの苦手な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 作品を見合う場面を取り入れることで、友達のよさや作品の工夫に気付き、どのように工夫すればよりよくなるか児童が自ら解決できるようにする 更に良い作品になるように、粘り強く学習に取り組むように指導する。 	B	B
体育	<ul style="list-style-type: none"> 体を動かすことが好きな児童は多いが、失敗したり負けたりしたときに、意欲が持続しないことがある。 マット、鉄棒、固定遊具等の道具を使った運動遊びやボールの扱い等において、経験不足で体の使い方が掴めない児童が多く見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> できたこと、努力したことを認めたり励ましたりしながら、運動遊びへの意欲を持続させる。 運動遊びの運動量を確保し、多様な運動感覚を身に付けさせるとともに体力の向上を図る。 	B	B

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和5年度 府中市立日新小学校 授業改善推進プラン（各学年の取組）

第2学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 正しい表記や文章、文章構成の基本ができていない児童が多い。 漢字の習熟度に個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 文を書く前に、句読点やかぎかっこ、「てにをは」など既習事項を振り返りながら授業をすすめる。 モデル文などを使って、視覚的に文章構成を指導する。 定期的に漢字練習とミニテスト、直しを行い、正しく覚えられるようにしていく。 	B	B
算数	<ul style="list-style-type: none"> 計算能力や問題解決能力の個人差が大きい。 数の概念や式の意味、問題の意味などが理解できていない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 十マス計算などの計算プリントを授業毎の帯活動として行い、基礎力を付ける。 子供が興味・関心をもって問題に取り組めるような問題など導入を工夫する。 問題の中でポイントとなる部分を確認し、図や絵・具体物などを用いて、視覚的に分かりやすく指導をする。 	A	A
生活	<ul style="list-style-type: none"> 観察のポイントが掴めてきている。 絵や文章に表現したりすることについては個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元の学習の流れを掲示物等で視覚的に捉えられるように工夫する。 できる限り実物に触れたり接したりさせる。状況的に無理ならばそれを補う資料を用意する。 個に応じた、写真を用いて負担を軽くしたり、まとめ方のパターンを提示したりする等の手立てをとる。 	B	B
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 鍵盤ハーモニカの操作と音に気が向きがちで、いつまでも吹き続けるなど指導が通らないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 鍵盤ハーモニカのきまりを徹底する。 おおらかに歌うための準備として、曲想を感じ取り曲によって歌い方を変える学習を進める。 	C	B
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 友達の作品のよさに気付くことができる。 最後まで丁寧にやり遂げられなかったり、想像を膨らませることが難しかったりする児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分なりに工夫したり、最後まで粘り強く取り組んでいたりする児童を褒める。 作品を提示することで、他に児童にどのように取り組めばよいのか分かるようにする。 	A	A
体育	<ul style="list-style-type: none"> 器械・器具を使っでの運動遊びでの運動感覚等に、個人差が大きい。 自分にあつためあてを設定することがまだ難しい児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 個々が時間毎に具体的なめあてをもてるよう支援する。 児童の動きを見てその場で個別指導し、児童に伝える。 ペアやグループで見合い教え合う活動を積極的に取り入れていく。 	B	B

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和5年度 府中市立日新小学校 授業改善推進プラン（各学年の取組）

第3学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の習熟や文章構成の基本ができていないため、書くことに抵抗感をもつ児童が多数いる。 全体的に語彙が乏しい。 新しい言葉や用語の使い方を習得することが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 定着を図るため、漢字練習とミニテストを行う。日記などの中で既習漢字を使わせるように指導・助言をする。 国語辞典を使うことに慣れさせる。授業内でその都度言葉の意味を確認していく。 読み聞かせや図書の時間を通じて、読書活動を推進し、いろいろな言葉に親しませる。 	C	B
算数	<ul style="list-style-type: none"> 文章問題の中の大事なところを捉え、正しく立式する力に課題がある。 自分の考えを図や言葉を使って表すことに課題をもつ児童がいる。 低学年の学習内容に積み残しのある児童が、一定程度いる。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章問題の中で着目する言葉（キーワード）を意識させて立式させるようにする。 文章問題で図や絵に表すことを繰り返し指導したり、良い例を見る機会を設けたりする。 関連する下学年学習内容の積み残しを、家庭学習なども利用して復習しつつ授業展開する。 	B	B
理科	<ul style="list-style-type: none"> 生活科から比べ、専門的な言葉や言い回しが増え、正しく覚えることが難しい。 観察はできているが、そこから考察することが苦手である。 実験が初めてなので、記録の仕方などがよくわかっていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 補助的なワークシートなどを使い、ノートにまとめる習慣を身に付けさせる。 2つの結果を比較して発見したことを価値付ける。 実験の留意点及び正確な記録方法を指導する。 	B	B
社会	<ul style="list-style-type: none"> 資料を読み取る力がまだ身に付いていない。 見学や体験の時の視点を自分で見付けられない。 身近な場所については知識が身に付いているが、学習範囲が市全体に広がると定着が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料の見方をその都度教え、読み取る時間をとる。 着目する視点をきちんと見つけさせる。 写真や動画を活用するなど、生活経験の少なさを補いながら教える。 	C	C
音楽	<ul style="list-style-type: none"> リコーダー演奏の時、指と口と頭の協応運動がうまくいかない。 響きのある声で合わせて歌うことができず、地声でどなるように歌う児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 階名を歌う、指だけ練習する、など段階を追って練習させる。 周りの声の響きを聴きながら、息を合わせて心地よさを味わいながら歌えるような表現の仕方を体験させる。 	B	B
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> のびのびと表現できる児童が多いが、表し方の構想を練ることに課題がある。 自分で表したいことを見付け活動できる児童が多いが、題材によっては、発想が広がらない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 多様な作品やその表し方を提示し、自分の思いに合った表現を見付けたり構想したりする場面を設定する。 材料を試しながら表したいことを見付ける場をつくったり、友達と相談する時間を設けたりすることで、児童が発想するきっかけをつくる。 	A	A
体育	<ul style="list-style-type: none"> 鉄棒やマット運動などで逆さまになることに強い恐怖を感じる児童がいる。 自分にあつためあてを設定することがまだ難しい児童がいる。 運動量が十分に確保できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな姿勢による運動感覚を意識的に言語化させてとらせ、抵抗感を減らしていく。 動画などで、視覚的に自分の体の動きを振り返ることができるようにする。 授業で運動への意欲を高め、休み時間や放課後に体を動かす習慣付けにつなげる。 	C	B

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和5年度 府中市立日新小学校 授業改善推進プラン（各学年の取組）

第4学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の習熟に個人差が見られ、読み書き共に苦手意識をもつ児童がいる。 自分の考えを書いたり話したりすることに課題をもつ児童がいる。 話の内容を正しく聞き取ることに課題をもつ児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 定着しづらい児童については、練習の仕方を工夫できるように、ドリルや宿題についての指導法を改善していく。 書いたり話したりする視点を明確にし、様子を表す言葉を増やすような指導を行う。 朝のスピーチなど身近な話題について話す活動を取り入れ、話の中心を意識させる言葉掛けを行う。 	B	B
算数	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な四則計算など、既習事項が身に付いていない児童がいる。 垂直、平行、平行四辺形、ひし形などの正しい作図に課題をもつ児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 導入時に既習事項の振り返りを行い、新しい知識との繋がりを意識させる。 作図の正しい手順を繰り返し練習させる。家庭学習で定期的に作図に取り組ませる。 	B	B
理科	<ul style="list-style-type: none"> 自身の予想と実験の結果を照らし合わせ、考察することに課題がある児童がいる。 自身の生活経験から調べる問題を見出すことが苦手な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 考察の書き方を押さえ、正しい順序で考察が書けるように指導する。 どのような生活経験と関係づけて考えられるかグループ同士で話し合う時間を設ける。 	C	C
社会	<ul style="list-style-type: none"> 資料の読み取りが苦手な児童が多い。 生活経験をもとに問題に対して予想することができない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料の読み取るポイントを示し、読み取れるように丁寧に指導する。 どのような生活経験と関係付けて考えられるかグループ同士で話し合う時間を設ける。 	B	B
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 歌唱やリコーダーの演奏に苦手意識を持つ児童が見られる。 無理のない自然な声で歌うことが定着してきている。 機会の減少による演奏技術の遅滞がみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 短時間でやることのできる発声練習や歌のポイント指導を通して、音楽的表現を身に付けさせる。 楽しみながら学ぶことを継続させるため、ICTなどを活用した演奏への取り組みをさらに増やして、機会の減少を補う。 	B	B
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いを工夫して表現することに課題がある児童がいる。 配慮を要する児童が多く、発想・技能の個人差があるため、個別の支援が欠かせない。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業中に作品を見合う時間をつくり、他の児童の工夫している点など全体に紹介し、共有していく ねらいや作業工程が分かるように視覚的な参考見本等を用意し、個別に支援していく。 	B	B
体育	<ul style="list-style-type: none"> 試合の中でどのような動きをするべきか考えながら動ける児童が少ない。 個人でなくチームとしてどのように動いたほうがよいか話し合える児童が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ゲームにおいては作戦会議の時間を設け、チームの動きを考えさせる。 グループの中に話し合いをリードできる児童を編成し、どのようなことを話し合うべきなのか、具体的に例を示す。 	B	B

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和5年度 府中市立日新小学校 授業改善推進プラン（各学年の取組）

第5学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の習熟が十分でない児童が多い。 自分の考えを書いたり話したりすることに課題がある児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 定着しづらい児童については、練習の仕方を工夫できるように具体的に支援・援助する。 書いたり話したりする視点を明確にし、様子を表す言葉を増やすような指導を行う。 	C	B
算数	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを式、図、表などの様々な方法で内容を理解する力に課題がある。また、その考えを友達に説明するのが苦手な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 式、図、表などを関係付けて理解する機会をつくり、問題について深く理解できるようにする。 友達と交流する機会や、友達の考えを聞く機会を増やし、自分の考えを広げる活動をする。 	B	B
理科	<ul style="list-style-type: none"> 予想を立てるときに学習内容と生活体験を関連付けて考えることが苦手な児童がいる。 観察・実験結果を基にした根拠のある考察することに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 自力解決の後でペア学習やグループ学習を取り入れ、多面的に考えることで思考を深める。 自分の立てた実験計画からどのような結果が得られたのか考え、児童同士で検討できる時間をとる。 	B	B
社会	<ul style="list-style-type: none"> 専門用語の知識・理解が不十分な児童がいる。 課題解決に必要な資料を選んだり、読み取ったりすることに課題がある児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 新出の専門用語は、定義や意味を丁寧に確認する。 どの資料からどのようなことが読み取れるのか、児童同士で確認できる時間を設ける。 	B	B
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 機会の減少による表現技術の遅滞がみられる。 自信のなさが原因で歌唱活動に意欲的に取り組むことのできない児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ICTを活用した演奏への取り組みをさらに増やして、機会の減少を補う。 歌唱活動の機会を増やし、歌唱以外の体験と結び付けながら、自信をもって歌唱活動に取り組んでいけるようにする。 	B	B
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的に取り組む児童が多いが、用具や材料の特徴を生かして工夫することに課題がある児童がいる。 制作を短時間で終わらせてしまい、より工夫して取り組むことが苦手な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習の用具・材料を使用する際にも、教師が示範したり使い方や手順を掲示したりするなど、再度確認してから活動に入らせる。 工夫している作品を称賛し、どのように工夫すればよいか児童が自ら思いつけるようにする。 	B	B
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 課題や活動に意欲的に取り組む児童が多く、日常生活を見つめ問題を見出そうとしているが、主体的に向かえない児童もいる。 家庭での経験の違いが比較的大きく、知識や技術、問題に向かう意欲に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 見付けた問題から自分の生活の課題を設定し、解決していけるような授業を計画する。 個別に必要な支援を行い、解決できるような課題を考え取り組んでいけるようにする。 	B	B
体育	<ul style="list-style-type: none"> 自己の課題を見付けることや、解決するための方法及び活動を工夫することに課題がある児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題を見付けたり解決したりするための時間を意図的に設定する。 	C	B
外国語	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションを図ろうとする意欲や態度に大きい個人差がある。 アルファベットに苦手意識があり、ワークシートに書き渋る児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 歌やアクティビティなどの活動を多く取り入れ、楽しく関わり合える場を設定する。 アルファベットの大文字、小文字、四線上の書き方など、定期的に練習する方法を入れる。 	B	A

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和5年度 府中市立日新小学校 授業改善推進プラン（各学年の取組）

第6学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 構成を工夫して文章を書くことが難しい。 話し手の意図を捉えながら、目的に応じて質問をすることが苦手な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常の中で書く活動を多く取り入れる。また、上手に書いている文章を提示するなど、構成の工夫のポイントを指導する。 話し手の意図を意識しながら聞く姿勢をもたせる。自分が十分に理解するために、さらに尋ねるべきことを考えて質問させるようにする。 	B	B
算数	<ul style="list-style-type: none"> 知識・技能の定着に課題がある。 既習の学習を生かして、問題を解決することに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習を生かし、新しい知識・技能と関連付けて獲得できるように、複数の考え方を検討する。 検討の目的を意識させ、技能の定着や考え方の明確化に向けて指導する。 	B	A
理科	<ul style="list-style-type: none"> 生活経験から、問題に対する結果の予想を立てられる児童が少ない。 知識として知っていても、どうしてその結果になるのか説明をすることが難しい。 実験の方法を正しく選び、読み取ることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な自然の事物・現象に触れる機会を多く取り、気付いたことを焦点化しながら確認していく。 実験や結果などのポイントを示し、自身の言葉で表現できるようにする。 	B	B
社会	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決に必要な資料を選ぶことに課題がある児童がいる。 資料から分かることや想像できることを考え、表現することが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 映像資料等を活用してイメージをもたせる。 当時の人の気持ちを想像させ、資料の中のもののできるだけ自分たちに近いものとしてとらえさせる。 キーワードを使って自分の考えをまとめる指導をする。 	B	B
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 器楽や箏の演奏に意欲的に取り組むことができる。 協力して向上させていく意識が、足りない。 	<ul style="list-style-type: none"> ICTを活用して児童が自ら考えられるように教材を作成する。 ICTを活用して興味を持って、歌唱や鑑賞に取り組むことができるよう指導する。 	B	B
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 技能面に差があり、用具や材料の特徴を生かして工夫することに課題がある児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習の用具・材料を使用する際にも、教師が示範したり使い方や手順を掲示したりするなど、再度確認してから活動に入らせる。 	B	B
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活の問題から課題を見付けたり、解決に向け考えたりすることができていない児童が見られる。 主体的に問題に向かう姿勢が十分でない児童が多く、家庭での取り組みを振り返ることがしづらい。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の生活を振り返って問題を見付けさせるような授業や学習プリントを計画し、課題がもてるようにし、解決方法を考えさせる。 	B	B
体育	<ul style="list-style-type: none"> 自分の動きを振り返り、取り組み方を工夫したり、練習の場を選択したりすることに課題がある。 器械運動では、腕支持や回転運動に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な領域の運動に親しめるように、グループ学習や運動の特性に応じた楽しさを味わえるように工夫する。 ICTを活用し、自分の動きを振り返る場をつくる。 	B	B
外国語	<ul style="list-style-type: none"> 集めた情報を、自分のテーマに沿って取捨選択することが難しい。 ペアワーク等で調べたことを自分の言葉でまとめることが難しい。 最後までどうにかして相手に伝えようと粘り強く取り組む児童が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体でテーマを共有し、範囲を狭めることでテーマを見つけやすくする。 調べたことを短く端的にまとめる場を設定する。 友達とやり取りが必要な活動を多く取り入れる。簡単な内容から扱っていく。 	B	B

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。